

平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月10日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社 シーマ
 コード番号 7638 URL <http://www.cima-ir.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 白石 幸栄

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 総務部長 (氏名) 松橋 英一

TEL 03-3567-8098

四半期報告書提出予定日 平成23年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	8,521	0.6	515	701.2	515	—	217	—
22年3月期第3四半期	8,473	△5.4	64	△86.8	45	△90.3	3	△98.2

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	1.18	—
22年3月期第3四半期	0.02	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	9,618	5,825	60.6	31.70
22年3月期	9,323	5,607	60.1	30.51

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 5,825百万円 22年3月期 5,607百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
23年3月期	—	0.00	—	—	—
23年3月期(予想)	—	—	—	1.00	1.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,718	2.3	634	154.3	608	171.5	316	—	1.72

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.5「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名

）、除外 一社（社名

）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年3月期3Q 183,765,644株 22年3月期 183,765,644株

② 期末自己株式数 23年3月期3Q 746株 22年3月期 725株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年3月期3Q 183,764,910株 22年3月期3Q 183,764,960株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法にもとづく四半期報告書のレビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法にもとづく四半期報告書のレビュー手続きは終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項などについては、四半期決算短信（添付書類）P. 4「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. その他の情報	5
(1) 重要な子会社の異動の概要	5
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	5
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成22年4月1日～平成22年12月31日）におけるわが国経済は、政府の各種政策効果などを背景に、一部の業種において企業収益に改善する動きが見られましたが、アジアにおける生産の減速などの影響を受け、輸出・生産ともに、このところ減少傾向にあり、景気は足踏み状態が続きました。

景気の先行きについては、海外景気の下振れ懸念や、為替レート・株価の変動など、景気を下押しするリスクが未だ存在しており、先行き不透明な状況が続いています。

このような経済状況のもと、ブライダルジュエリー市場は、景気悪化の影響などによるお客様の商品購入単価の下落傾向が続きました。また限られた需要を奪い合うといった競合各社との競争が激化しており、当社においても厳しい経営環境となりました。

しかしながら、当社では、創業からの理念に立ち返り、あらゆる最高（スペイン語で“シーマ”）をお客様に提供すべく、それらを追求していくことを、全役員が改めて共有しました。当社が業界における地位を確立し、さらなる成長を遂げることを目指し、全社一丸となって取り組みました。

売上面においては、集客増のための極め細やかな営業施策を積極的に全国で実施したことや、お客様満足度向上のための施策を実施したことなどにより、前年同四半期を上回りました。

また、利益面においては、引き続き経費削減に全社を上げて取り組み、営業利益、経常利益は前年同四半期に比べ大幅に増加させることができました。

結果として、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高85億21百万円（前年同四半期比0.6%増）、営業利益5億15百万円（同701.2%増）、経常利益5億15百万円（前年同四半期は45百万円）、四半期純利益2億17百万円（前年同四半期は3百万円）となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間の売上総利益率は、68.2%と高い水準を維持しました。

厳しい経済状況が今後も予想されますが、効果的な集客戦略などにより売上の増加をはかるとともに、引き続き全社的な経費削減を徹底していき、利益の増強をはかります。

当第3四半期連結累計期間におけるブライダルジュエリー事業の主な施策などは、以下のとおりです。

1) 新店舗1店（移転1店舗）開設および、増床1店舗

第2四半期連結累計期間に開設した店舗に加え、当第3四半期連結会計期間に以下の2店舗を移転、増床しました。

10月22日 「エクセルコ ダイヤモンド 名古屋本店」を移転、開設。

11月27日 「エクセルコ ダイヤモンド 東京本店」の3階フロアを増床。

2) 商品力強化

第2四半期連結累計期間に発表した商品に加え、当第3四半期連結会計期間に以下の新商品を発表しました。

（銀座ダイヤモンドシライシ）

・新作マリッジリング“N o v a（ノーヴァ）”を10月17日に発表。

（エクセルコ ダイヤモンド）

・新作セットリング“CORONET（コロネット）”を11月20日に発表。

・新作マリッジリング“M I Z P A H（ミズパ）”を12月18日に発表。

3) 提携先ホテル・式場数の増大と提携関係のさらなる強化

4) 集客力強化

新たな集客チャネルの開拓を推進し、独自のノウハウをもとに当期より開始した集客活動を全国各地で実施し、売上に寄与しました。

5) ティアラ・レンタルサービスの売上

売上は、前年同四半期と比較して順調に増加しました。

また、ブランド別の売上、販売・サービス別の売上は、以下のとおりです。

①ブランド別売上高

セグメントの名称	ブランドの名称など	当第3四半期連結累計期間(千円) (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	前年同四半期比 (%)	構成比 (%)
ブライダルジュエリー事業	銀座ダイヤモンドシライシ	5,195,691	105.3	61.0
	エクセルコダイヤモンド	2,839,720	98.4	33.3
	ホワイトベル	439,006	89.8	5.2
	その他(注)2	46,654	192.1	0.5
合 計		8,521,072	100.6	100.0

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれていません。

2. ブライダルジュエリー事業の「その他」は、商品部門売上など本社関連の売上となっています。

②販売・サービス別売上高

セグメントの名称	販売・サービスの名称など	当第3四半期連結累計期間(千円) (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	前年同四半期比 (%)	構成比 (%)
ブライダルジュエリー事業	ブライダルジュエリー販売	7,922,787	100.8	93.0
	ファッションジュエリー販売	340,595	137.0	4.0
	ギフト販売	133,960	92.5	1.6
	ウエディング送客サービス	38,847	110.7	0.4
	その他(注)2	84,881	185.3	1.0
合 計		8,521,072	100.6	100.0

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれていません。

2. ブライダルジュエリー事業の「その他」は、ティアラ・レンタルサービスなどの売上となっています。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債、純資産の状況

(資産の部)

流動資産は、商品及び製品が減少したものの、現金及び預金が大幅に増加したため、前連結会計年度末に比べて2億67百万円増加して65億40百万円となりました。また、固定資産は、償却により有形固定資産が減少したものの、新店の建設協力金・工事負担金の発生により長期貸付金が増加したことや繰延税金資産が増加したことにより、前連結会計年度末に比べて28百万円増加し、30億78百万円となりました。この結果、当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて2億95百万円増加し、96億18百万円となりました。

(負債の部)

流動負債は、未払金及び未払費用、1年内償還予定の社債が増加したものの、短期借入金の返済をしたため、前連結会計年度末に比べて1億29百万円減少し、30億46百万円となりました。固定負債は、長期借入金の返済をしたものの、財務政策上、社債を発行したため、前連結会計年度末に比べて2億6百万円増加し、7億46百万円となりました。この結果、当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて77百万円増加し、37億93百万円となりました。

(純資産の部)

純資産合計は、利益剰余金などの増加により、前連結会計年度末に比べて2億18百万円増加し、58億25百万円となりました。

結果として、自己資本比率は60.6%となり、当第3四半期連結会計期間末の1株当たり純資産額は31円70銭となりました。

②キャッシュフローの状況

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の四半期末残高は13億77百万円となり、前連結会計年度末に比べて6億9百万円増加しました。各キャッシュ・フローの状況と要因は、以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、9億95百万円の収入（前年同四半期は36百万円の収入）となりました。営業収入が89億49百万円（前年同四半期比2.1%増）と増加したことや原材料又は商品の仕入れによる支出が26億48百万円（同9.7%減）、人件費の支出が17億65百万円（同10.5%減）と減少した結果です。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、1億2百万円の支出（前年同四半期比76.0%減）となりました。主に、新規出店費用などの有形固定資産の取得による支出が79百万円（同80.0%減）と減少したことや、前年同四半期には連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出が発生した結果です。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、2億83百万円の支出（前年同四半期は76百万円の収入）となりました。短期借入金を返済すると共に、長期・短期とも、新規の借入れを行わなかったためです。また、財務政策上、社債を発行し、短期借入金の返済に充てた結果です。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当社を取り巻く主な事業環境であるブライダルジュエリー市場は、企業間競争の激化と国内景気の低迷などにより、今後も厳しさが予想されます。

当社では、少子化・晩婚化や顧客ニーズの変化などにより将来縮小傾向にある市場を見据え、厳しい事業環境で勝ち残れる企業体質にすべく、事業基盤を強化するとともに、収益力の拡大をはかり、業界での地位を確固たるものにしていきます。

当社の当連結会計年度（平成22年4月1日～平成23年3月31日）における業績は、ダイヤモンドをコアとした独自のビジネスモデルの優位性や業界における先駆的な施策などにより、予想に対し堅調に推移するものと見込んでいます。

当社では、これらの状況を踏まえて、ブライダルジュエリー事業を中心に、当社が提供する各サービスの特長を最大限に生かした販売促進・広告宣伝活動を行うとともに、社員教育の充実による質の高いサービスを提供し、顧客満足度の一層の向上を目指します。

その他、上記以外の新規事業、M&Aも含めた新たな収益基盤の構築も機動的に検討していきます。

以上により、当社は、ブライダルジュエリー業界における優位性をさらに強化し、収益の最大化に努めます。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

1. 簡便な会計処理

(固定資産の減価償却費の算定方法)

定率法を採用している固定資産については、連結会計年度にかかる減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっています。

2. 特有の会計処理

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

・会計処理基準に関する事項の変更

「資産除去債務に関する会計基準」の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）および「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しています。

これによる営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,377,181	767,834
受取手形及び売掛金	392,612	420,282
商品及び製品	4,452,478	4,688,377
原材料及び貯蔵品	115,538	123,408
前払費用	122,829	102,375
繰延税金資産	82,620	146,529
その他	14,724	44,520
貸倒引当金	△17,971	△20,609
流動資産合計	6,540,013	6,272,718
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備（純額）	778,318	823,267
車両運搬具（純額）	106	165
工具、器具及び備品（純額）	954,258	934,975
建設仮勘定	—	1,378
有形固定資産合計	1,732,683	1,759,787
無形固定資産		
ソフトウェア	41,000	37,464
電話加入権	4,932	4,932
無形固定資産合計	45,933	42,396
投資その他の資産		
長期前払費用	38,495	39,019
長期貸付金	21,361	—
敷金及び保証金	1,090,813	1,105,244
繰延税金資産	146,990	101,586
その他	2,990	2,377
貸倒引当金	△625	—
投資その他の資産合計	1,300,026	1,248,226
固定資産合計	3,078,642	3,050,410
資産合計	9,618,656	9,323,129

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	298,220	349,027
短期借入金	1,115,078	1,625,028
1年内償還予定の社債	100,000	—
1年内返済予定の長期借入金	270,312	316,048
未払金及び未払費用	563,806	372,005
未払法人税等	206,334	175,830
前受金	211,744	179,672
その他	280,774	157,814
流動負債合計	3,046,271	3,175,427
固定負債		
社債	400,000	—
長期借入金	75,264	265,872
退職給付引当金	211,098	187,930
長期未払金	60,554	86,676
固定負債合計	746,916	540,479
負債合計	3,793,187	3,715,907
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,777,743	1,777,743
資本剰余金	1,536,643	1,536,643
利益剰余金	2,508,031	2,290,714
自己株式	△72	△72
株主資本合計	5,822,345	5,605,028
評価・換算差額等		
為替換算調整勘定	3,122	2,194
評価・換算差額等合計	3,122	2,194
純資産合計	5,825,468	5,607,222
負債純資産合計	9,618,656	9,323,129

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	8,473,724	8,521,072
売上原価	2,653,384	2,712,444
売上総利益	5,820,339	5,808,628
販売費及び一般管理費	5,756,061	5,293,626
営業利益	64,278	515,001
営業外収益		
受取利息	49	228
為替差益	1,125	23,300
未払配当金除斥益	3,773	4,523
その他	3,688	5,255
営業外収益合計	8,636	33,307
営業外費用		
支払利息	27,062	21,819
社債発行費	—	10,039
その他	80	918
営業外費用合計	27,143	32,777
経常利益	45,772	515,531
特別利益		
関係会社株式売却益	52,964	—
貸倒引当金戻入額	1,132	2,930
不正事故損失回収益	—	11,634
特別利益合計	54,097	14,564
特別損失		
固定資産除却損	—	7,879
過年度退職給付費用	67,832	—
特別損失合計	67,832	7,879
税金等調整前四半期純利益	32,036	522,217
法人税、住民税及び事業税	39,619	286,477
過年度法人税等	18,202	—
法人税等調整額	△29,756	18,504
法人税等合計	28,065	304,982
少数株主損益調整前四半期純利益	—	217,235
四半期純利益	3,971	217,235

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
営業収入	8,767,256	8,949,194
原材料又は商品の仕入れによる支出	△2,932,534	△2,648,688
人件費の支出	△1,972,528	△1,765,256
その他の営業支出	△3,591,540	△3,317,173
小計	270,653	1,218,076
利息及び配当金の受取額	39	26
利息の支払額	△26,052	△19,731
その他の収入	7,394	47,750
その他の支出	△69	△993
法人税等の支払額	△215,929	△249,850
営業活動によるキャッシュ・フロー	36,037	995,278
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△395,523	△79,103
無形固定資産の取得による支出	△19,910	△14,099
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△23,696	—
敷金及び保証金の差入による支出	△3,355	△9,491
敷金及び保証金の回収による収入	16,793	23,622
建設協力金の支払による支出	—	△25,000
建設協力金の回収による収入	—	2,940
その他の支出	△372	△1,037
投資活動によるキャッシュ・フロー	△426,063	△102,169
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	700,000	400,000
短期借入金の返済による支出	△559,987	△909,944
長期借入れによる収入	350,000	—
長期借入金の返済による支出	△232,626	△262,466
社債の発行による収入	—	489,458
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△180,725	△693
財務活動によるキャッシュ・フロー	76,659	△283,646
現金及び現金同等物に係る換算差額	33	△116
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△313,333	609,346
現金及び現金同等物の期首残高	905,426	767,834
現金及び現金同等物の四半期末残高	592,092	1,377,181

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

	ブライダル ジュエリー事業 (千円)	ウエディング プロデュース 事業 (千円)	計 (千円)	消去または全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	8,332,272	141,451	8,473,724	—	8,473,724
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	374	619	994	△994	—
計	8,332,647	142,071	8,474,718	△994	8,473,724
営業利益又は営業損失(△)	71,054	△6,775	64,278	—	64,278

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、商品の系列および市場の類似性を考慮して区分しています。

2. 各区分に属する主要なブランド

事業区分	主要ブランドなど
ブライダルジュエリー事業	銀座ダイヤモンドシライシ、エクセルコダイヤモンド、ホワイトベル
ウエディングプロデュース事業	オリーブの丘(注) 4

3. 前第1四半期連結会計期間より、当社の退職給付債務の算定方法を簡便法から原則法に変更しています。これによるセグメント情報に与える影響は軽微です。

4. 「オリーブの丘」は、株式会社トゥインクルスターのブランド名です。

平成21年11月10日付で、ウエディングプロデュース事業を展開する連結子会社、株式会社トゥインクルスターの当社保有全株式を売却しました。それにより、前第3四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しています。

〔所在地別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しています。

〔海外売上高〕

前第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

海外売上高がないため該当事項はありません。

〔セグメント情報〕

当第3四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日）

当社グループは、ブライダルジュエリー事業の単一セグメントであるため、記載を省略しています。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）および「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しています。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。